

令和 2年 2月

柳樂慶 学位論文審査要旨

主 査 稲 垣 喜 三
副主査 汐 田 剛 史
同 原 田 省

主論文

Tokishakuyakusan, a kampo medicine, attenuates endometriosis-like lesions and hyperalgesia in murine with endometriosis-like symptoms

(漢方薬の当帰芍薬散は、子宮内膜症様症状を伴うマウスの子宮内膜症様病変と痛覚過敏を軽減する)

(著者：柳樂慶、谷口文紀、中村和臣、常田洋平、土屋直子、Khine Yin Mon、原田省)

令和元年 American Journal of Reproductive Immunology DOI:10.1111/aji.13182

参考論文

1. 帝王切開癒痕症候群の4例

(著者：柳樂慶、谷口文紀、平川絵莉子、東幸弘、上垣崇、出浦伊万里、原田省)

平成27年 現代産婦人科 64巻 235頁～239頁

2. Lipopolysaccharide promotes the development of murine endometriosis-like lesions via the nuclear factor-kappa B pathway

(リポポリサッカライドはNF- κ B経路を介してマウスの子宮内膜症様病巣の進展を促進する)

(著者：東幸弘、谷口文紀、中村和臣、柳樂慶、Khine Yin Mon、木山智義、上垣崇、伊澤正郎、原田省)

平成29年 American Journal of Reproductive Immunology DOI : 10.1111/aji.12631

3. New insights into the efficacy of SR-16234, a selective estrogen receptor modulator, on the growth of murine endometriosis-like lesions

(マウスの子宮内膜症様病巣の増殖におけるSR-16234 (選択的エストロゲン受容体調節剤) の効果に対する新しい知見)

(著者 : Khine Yin Mon、谷口文紀、柳樂慶、中村和臣、大林徹也、尾崎充彦、原田省)

平成30年 American Journal of Reproductive Immunology DOI : 10.1111/aji.13023

審査結果の要旨

本研究は、自然性周期マウスの腹腔内に同種の子宮を移植し、子宮内膜症モデルマウスを作製した。当帰芍薬散（TSS）を経口投与し、温熱刺激による疼痛試験、子宮内膜症様病巣の評価、炎症性サイトカインの遺伝子発現および蛋白量を検討したものである。その結果、TSS投与により、子宮内膜症様病巣の個数および総重量は減少した。また、TSS投与後、子宮内膜症様病巣におけるインターロイキン33遺伝子発現が抑制され、子宮内膜症様病巣の内容液中の蛋白量も減少する傾向を認めた。

本論文では、TSSが疼痛過敏を改善し、病巣組織における炎症反応および病巣形成を抑制することが示された。また、TSSは子宮内膜症による月経困難症患者に対する治療薬になりうることを示唆する成績であり、生殖機能医学の分野で、明らかに学術水準を高めたものと認める。